

次期がん対策推進計画にかかる主な意見

～予防検診部会（平成 24 年 8 月 10 日、10 月 2 日開催）～

1. がん予防の推進

(1) たばこ対策の推進

- ・ 公共施設の分煙推進、敷地内禁煙を推進すること。
- ・ 禁煙調査は調査の母数を明確にすること。
- ・ 未成年者の喫煙率ゼロに向けた取組をすすめることは重要である。
- ・ 学校は全て敷地内禁煙とし、目標値も学校全てが取り組むとすべき。
- ・ 子どもだけでなく教員の禁煙、子どもを通じた家族への発信や教育も重要である。
- ・ 成人の喫煙率を下げることで、女性の禁煙対策も必要である。
- ・ たばこは依存症であり治療が可能という病気であることや、たばこをやめるとこんな良いことがあることを伝えていくことが大事。

(2) 生活習慣の改善

- ・ がん予防につながる食生活改善等はキャンペーン活動が必要である。
- ・ 生活全般について認識の低い職種の人達もいる。教育や啓発が必要である。
- ・ 親が朝食を食べないと子どもも食べない、食べれない状況にある。親教育が重要。

(3) 感染に起因するがんへの対策

- ・ 子宮がん予防ワクチン接種率向上のための啓発等が必要。

2. がんの早期発見

(1) がん検診受診者数の増加

- ・ がんの罹患、死亡、検診、生活習慣の状況を総合的に分析できる場があるとよい。今は、これらの情報管理や分析が不十分である。シンクタンクをつくって関係者とともに集計や分析等をすすめることが必要。県庁はこの結果を用いて企画や市町村等への現場指導をすべき。
- ・ 目標値にどれ位近づいたかをわかりやすくするために、受診率もいれたほうが良い。
- ・ がん検診未受診者の把握や大腸がん検診などの精密検査受診率のアップが必要である。

(2) がん検診体制の整備

- ・ がん検診の受け皿不足がないように県全体の問題としての対策が必要。

(3) 効果的ながん検診の実施・精度管理

- ・ がん検診の実施主体である市町村ごとに問題点がちがうため、市町村にあった指導をすることが大事。
- ・ 検診でがんが発見されると怖い、自分はがんにはならないと思う人あり。早期発見早期治療の大切さを伝えることが大事。
- ・ がん検診すすめ隊や食生活改善活動に合わせたがん検診受診の声かけ活動等、地域の草の根活動に頑張っている。県がサポートしているという文言があると動きやすい。
- ・ 啓発活動の効果の検証が必要である。

3. 子どもに対するがん教育

- ・ 将来を担う子どもへのがん教育は重要であり、学校でのがん教育の実施が必要。
- ・ 子どもの喫煙率ゼロや規則正しい生活習慣の確立の取組の推進は重要であり、子どもを通じて親への発信も大切。